

令和2年度 事業計画・収支予算

血液事業特別会計



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

1. 令和元年度 主な取り組みと今後の課題

項目	目標	これまでの取り組み	今後の方向性・課題
献血者の安定的確保	将来に向けた若年層の献血協力基盤の構築	<ul style="list-style-type: none"> 献血推進・予約システムの導入と活用 対象年齢にあわせた普及啓発 	<ul style="list-style-type: none"> 献血の意義と社会への貢献が実感できるような広報展開 効果的に献血協力依頼を行う仕組みの確立
血液製剤の安全性向上	輸血による副作用の低減・軽減	<ul style="list-style-type: none"> 新興・再興ウイルスへの対策 新規製剤(洗浄血小板)の供給開始 	<ul style="list-style-type: none"> より高精度の検査技術の導入 新たな血液製剤の開発
事業改善の推進	必要血液量の効率的かつ安定的な確保	<ul style="list-style-type: none"> 血漿分画製剤用原料血漿の各種確保対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 先進技術の活用による業務の効率化及び省力化の促進
健全な財政の確立	血液需要の変動(収益の増減)に対応できる財政基盤の構築	<ul style="list-style-type: none"> 各種費用の削減 新たな施設整備の延期・凍結 	<ul style="list-style-type: none"> 事業継続に必要な施設等の整備

2. 令和2年度事業計画の主な取り組み

収益的収入/支出 1,639億円/1,607億円
(血液事業特別会計) 差引額 32億円

(1) 必要血液量の確保対策の実施

- 若年層を中心とした献血の普及・啓発
- 献血予約制の推進
- 献血の社会的重要性の認知度向上に向けた広報活動

(2) 供給部門における体制・業務の見直し

- 新たな血液製剤の発注システムの導入と推進
- 血液製剤の定時配送体制の確立

(3) 血液製剤の安全対策の実施

- すべての献血血液に対するE型肝炎ウイルス検査の実施
- 血小板製剤への細菌スクリーニングの導入に向けた関連データの取得

(4) 造血幹細胞事業の推進

- 日赤運営の臍帯血バンクにおける公開臍帯血数の増加に向けた臍帯血の調製基準や運用手順の見直し

(5) 国際協力・海外交流の実施

- 「アジア赤十字・赤新月血液事業フォーラム」の開催

(6) 新たな事業の展開

- 研究者への献血血液の保管検体に関する情報の公開
- 医療機関での使用を目的とした不規則抗体スクリーニング用血球の作製

(7) 事業の効率的運営の推進

- RFID(※)を活用した新たな血液事業の仕組みの構築
- 情報通信分野の先進技術の活用による業務の省力化

※RFID: 電子タグを使い無線(非接触)により個体識別する技術(Radio Frequency Identification)
(「PASMO」や「SUICA」などの交通系ICカードもRFIDの一環)

3. 令和2年度事業計画のハイライト

- (1) 必要血液量の確保対策の実施
- (2) 供給部門における体制・業務の見直し

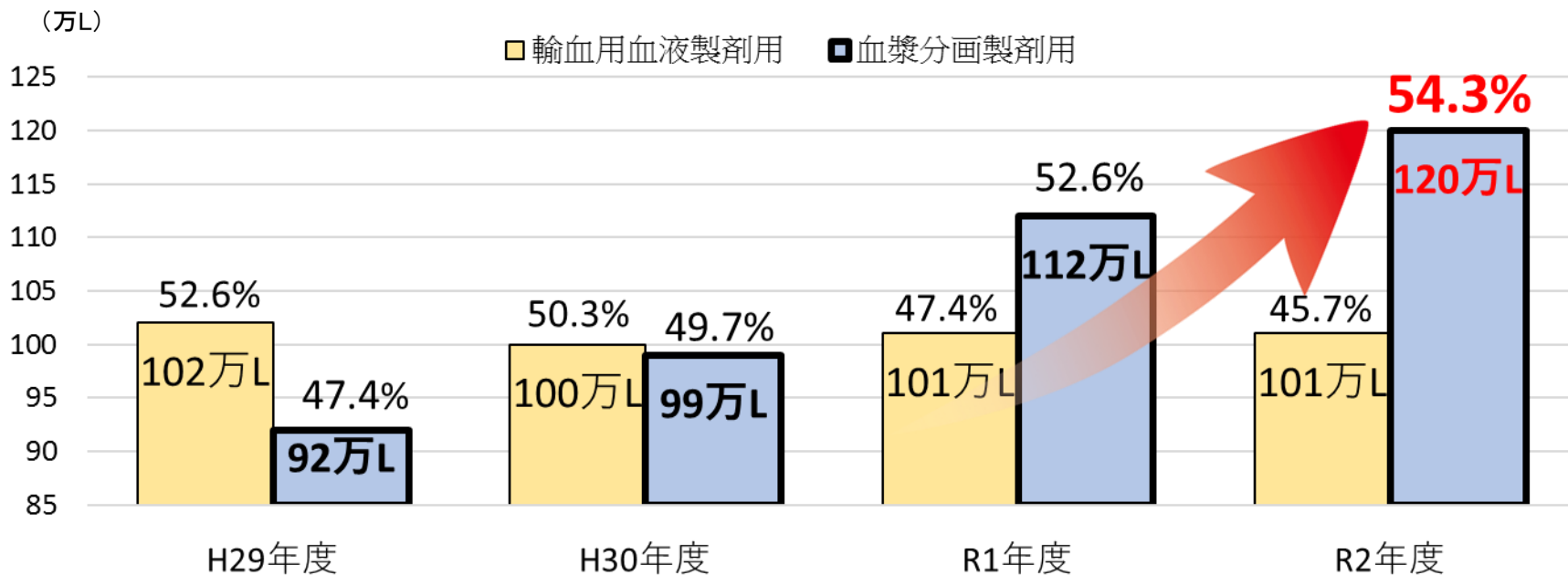


(1) 必要血液量の確保対策の実施

ア 背景・目的

- 免疫グロブリン製剤を中心とした、血漿分画製剤の需要増加に伴う必要血液量の増加
- 少子高齢化社会の進行による若年層献血者の減少

【献血血液の確保計画量の推移】



【参考】 血液製剤の種類

血液製剤とは、人の血液を原料とする医薬品であり、

「輸血用血液製剤」と「血漿分画製剤」に大別され、

献血された血液は成分に応じて、それぞれの製剤の原料として、活用される

【分画】

血漿中の100種を超えるタンパク質を
物理化学的に各々の成分に分けること

【血漿分画製剤】

血液中の血漿から、
治療に必要な血漿タンパク質を
種類ごとに分離精製した医薬品



製造工程のイメージ



製剤のイメージ

医療需要に応じた必要血液量(221万リットル)を確保するために、年間500万人の献血協力が必要

献血者 500万人 【全血献血】200mL献血:9万人、400mL献血:328万人
【成分献血】血漿成分献血:106万人、血小板成分献血:57万人



血漿分画製剤用
120万L

輸血用血液製剤用
101万L

血液センター

ブロック血液センター: 献血血液の検査、輸血用血液製剤の製造
赤十字血液センター: 輸血用血液製剤の供給



血漿分画製剤用原料血漿
122万L
(在庫調整分2万L含む)



赤血球製剤
639万本



血漿製剤
214万本



血小板製剤
882万本

計1735万本

製剤本数は200mL献血由来を1本とした換算数

国内製薬メーカー



医療機関



イ 施策の概要

(ア) 若年層を中心とした献血の普及・啓発

- ・献血つながりプロジェクト「みんなの献血」の展開(通年)
- ・「はたちの献血」キャンペーンの実施(1月)



⇒ 将来の献血基盤となる10代、20代の献血者数の増加を目指す

「乃木坂46」のイベント会場での献血実施風景(大阪府)
 (献血つながりプロジェクト「みんなの献血」の取り組み)



日程	実施会場	献血実施実績
10/22	夢メッセみやぎ(宮城県)	受付88名 採血80名(400mL:74名 200mL:6名)
11/17	インテックス大阪(大阪府)	受付211名 採血180名(400mL:172名 200mL:8名)
11/24	幕張メッセ(千葉県)	受付126名 採血101名(400mL:96名 200mL:5名)
12/15	ポートメッセなごや(愛知県)	受付103名 採血84名(400mL:83名 200mL:1名)

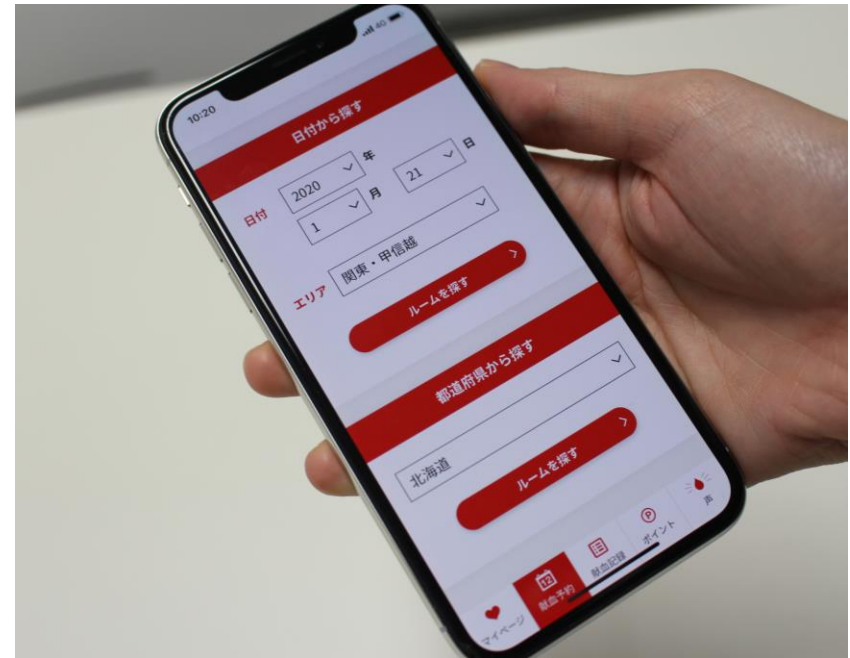
(イ) 献血予約制の推進

- ・ 献血推進・予約システム「ラブラッド」の活用
- ・ 献血者の属性（性別、年齢、協力頻度等）に応じた協力依頼方法の確立

【献血の事前予約率】

	令和元年度 (見込み)	令和2年度 (目標)
全血献血	1.5%	10.3%
血漿成分献血	25.4%	50.0%
血小板成分献血	46.2%	65.0%
全献血者に占める 予約献血者の割合	11.4%	25.0%

【ラブラッドの予約画面】



⇒全献血者に占める予約献血者の割合が25%に達することを目指す

(ウ) 献血の社会的重要性の認知度向上に向けた広報活動

- ・輸血を受けた方やその家族の声を閲覧できるシステムの構築
- ・献血血液が輸血用血液製剤に加え、血漿分画製剤の原料としても使用されていることの周知

【輸血を受けた方の感謝の声】

100人のやさしさが 私の体をめぐっています

お芝居を始めたのは中学の部活。高校生になっても演技をすることが好きでレッスンに通っていました。そんな高校2年生の秋に「急性リンパ性白血病」と診断されました。治療中は身体的のみならず、気持ち的にもつらかったです。薬の副作用で、髪の毛もまだらになって抜けていくし、顔もむくみ、外見が変わってしまっ。そんな中、支えになったのが担当医や看護師さん。治療のみならず、節分のときは看護師さんが鬼の格好をしてくれたり、クリスマスは研修医の先生がサンタクロースの格好をして病室をまわってくれたり。何より、母はずっと一緒に付き添ってくれました。そして多くの輸血にも支えてもらいました。輸血前は具合が悪くて意識が遠のくほどふらふらしてしまっていたも、輸血を始めるとだんだん体全体が温まってきて、頬がほてるのを感じます。「ああ生きてるんだな」って実感がありました。私の体にめぐっているものって、100人以上の方の好意、やさしさです。みなさんが献血してくれるおかげで私たち患者はこうして元気に今生きています。

ともよせ れん
女優 友寄 蓮 さん

献血をして下さる皆さん、
皆さんのおかげで、私は今かくて
元気な過ごすことができています。
わたしの身体に流れているものは
皆さんの優しい温かな気持ちです。
顔の見えない誰かのために、献血を
するという行為は素敵だと思います。
これからも、どうかお病気の患者に
命を分けて頂けたらと思います。
患者を代表して、ありがとうございます。



【血漿分画製剤の必要性を訴える医師の声】

ヒトの血液から作られる免疫グロブリン製剤は、神経系の病気の治療に無くてはならないものです。特にギランバレー症候群 (GBS) や、慢性炎症性脱髄性ニューロパチー (CIDP) ・多巣性運動ニューロパチーは、現在、治療手段の中心になっています。これらはいずれも免疫異常によって起こる末梢神経の病気で、手足の麻痺やしびれのため日々の生活を送ることが困難となりますが、免疫グロブリン製剤は、これらの障害の進行を抑え、症状の回復を促進します。GBSは、呼吸をする筋肉の麻痺や自律

神経障害により命に関わることもあり、早期の治療開始が必要です。また、CIDPでは繰り返しの投与や、維持療法も必要とされています。患者さんの命を救い、生活の質の改善や長期的な身体機能の維持に必要な免疫グロブリン製剤のニーズは益々高まっており、日本国内での献血による安心・安全な免疫グロブリン製剤が安定的に供給されることを期待します。

千葉 厚郎先生
(杏林大学神経内科教授)



⇒ 献血を通じた社会貢献実感の向上や、国民の献血への理解促進を目指す

ウ 期待される成果

- 必要血液量の安定的、効率的、計画的な確保
- 将来の献血基盤を支える若年層献血者の増加
- 献血の社会的重要性の認知度の向上



(2) 供給部門における体制・業務の見直し

ア 背景・目的

■血液製剤の供給体制の合理化を通じた事業の効率化

【医療機関への血液製剤の供給の流れ】

医療機関からの製剤受注



対象製剤の出庫



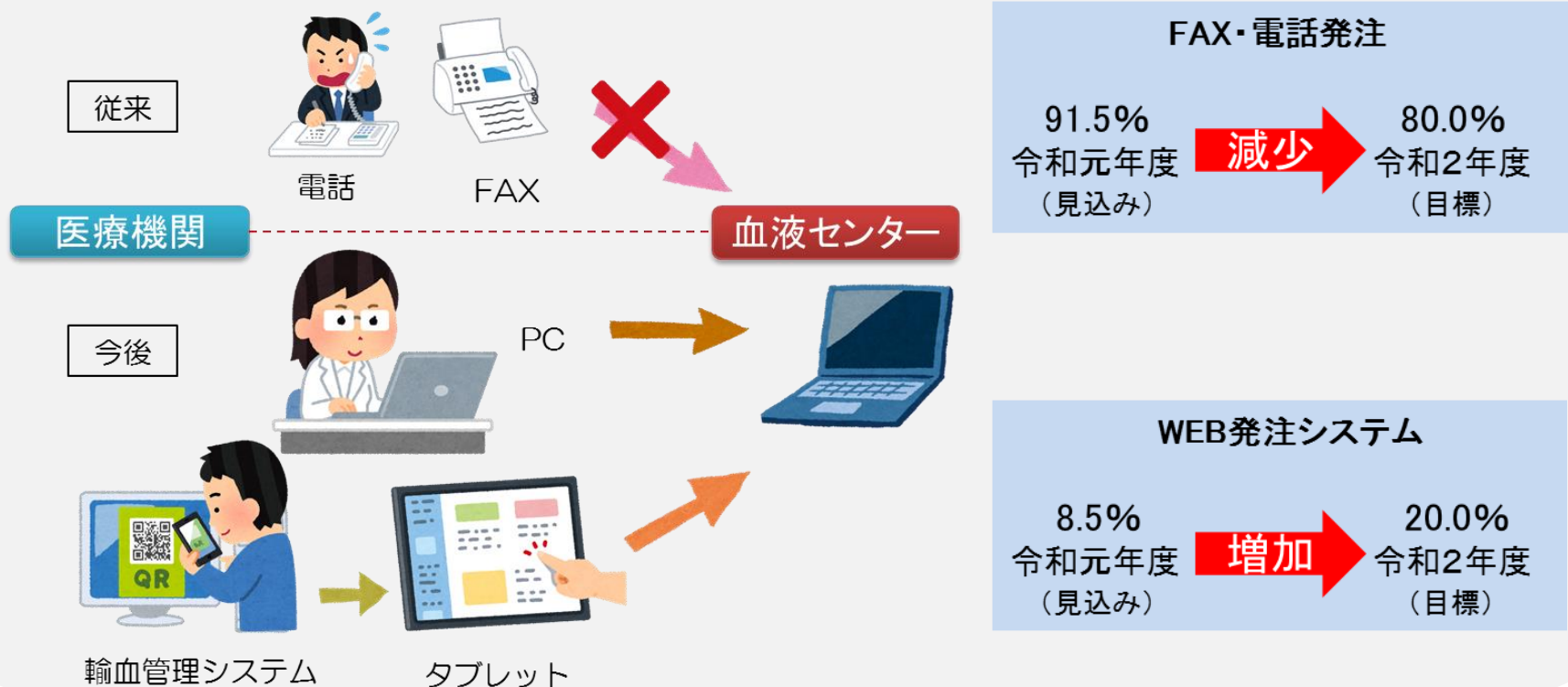
医療機関への配送



イ 施策の概要

(ア) 新たな血液製剤発注システムの導入と推進

- ・医療機関の意見を反映させた新システムの導入
- ・新システムの使用推進によるWEB発注への転換



⇒WEB発注の割合が20%に達することを目指す

(イ) 血液製剤の定時配送体制の確立

- ・輸血医療の実態を踏まえた配送体制への見直し
- ・医療機関に対する定時配送への協力依頼



【形態別の配送割合】

形態	定義	令和元年度における割合(見込み)	令和2年度における割合(目標)
定時配送	定時出発の配送便による計画的な配送	67%	80%
随時配送	定時配送以外の不定期な配送	29%	16%
緊急配送	医療機関からの緊急配送の要請に基づく配送	4%	4%

⇒ 計画的な定時配送の増加(定時配送率の向上)により、
 不定期な随時配送を減少させることで、配送体制の効率化を図る

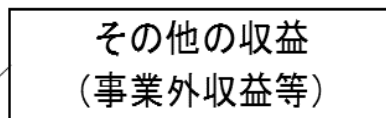
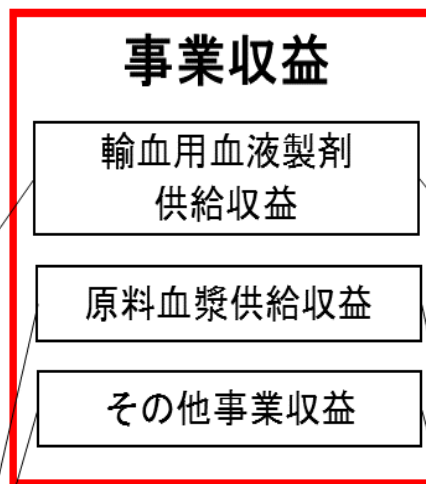
ウ 期待される成果

- 製剤のWEB発注率の向上による業務の効率化
- 計画的な定時配送を前提とした体制整備による配送体制の合理化・効率化

4. 血液事業特別会計収支予算のあらまし(収益的収入)

1,634億円

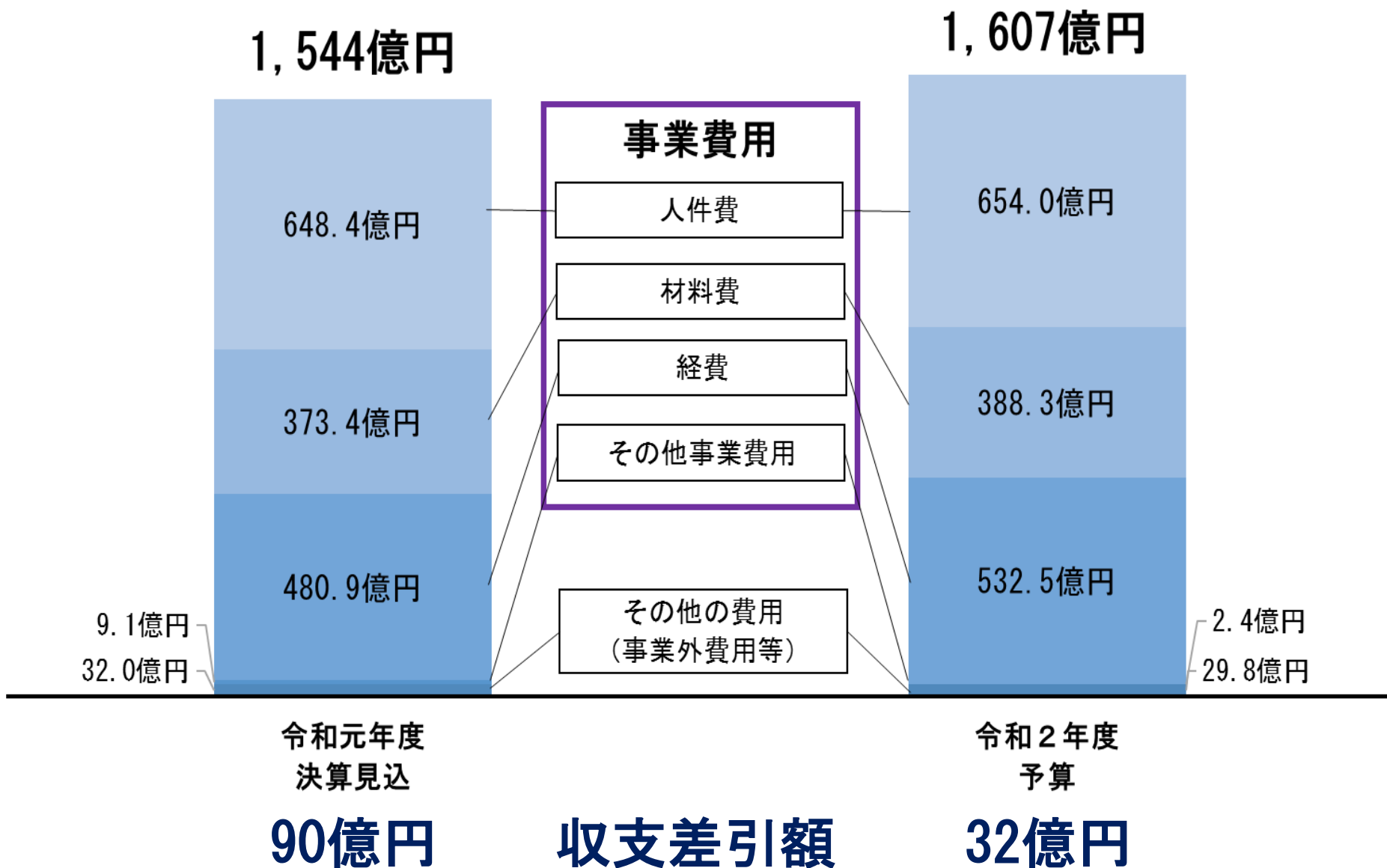
1,639億円



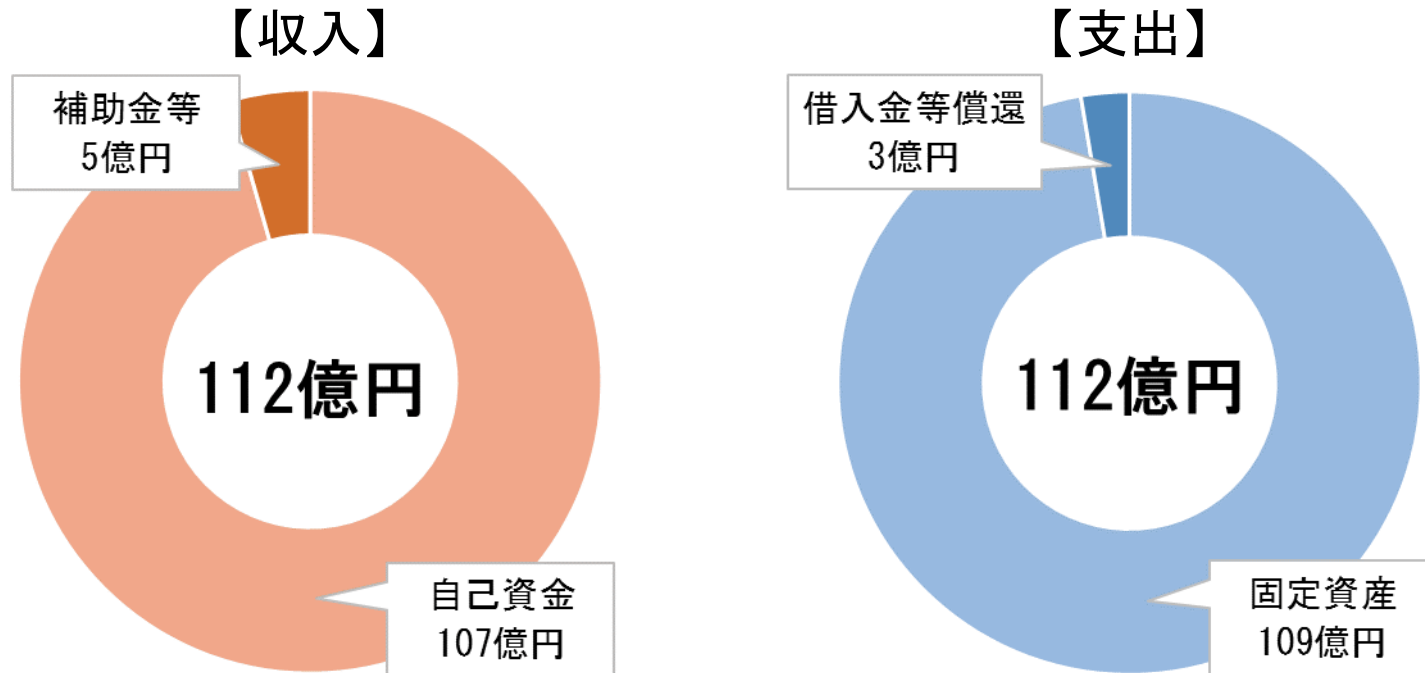
令和元年度
決算見込

令和2年度
予算

5. 血液事業特別会計収支予算のあらまし(収益的支出)



6. 血液事業特別会計収支予算のあらまし(資本的収支)



固定資産内容	金額
血液センター等の施設整備・改修	44億円
成分採血装置、全血採血装置、自動遠心分離装置等の機器整備	37億円
移動採血車、献血運搬車等の車両整備	16億円
血液製剤発注システムの構築、献血推進・予約システムの機能充実 血液事業情報システムの仕様変更等のソフトウェア整備	12億円

7. 収支状況の推移

- 広域事業運営体制当初の平成24～27年度は、収支が悪化傾向にあったが、経営改善の取り組みにより、平成28年度以降は黒字に転じ、安定的な経営を維持している。
- 令和2年度においても、事業継続に必要な施設整備を適宜進めつつ、将来の投資に備えた資金を確保しながら、安定的な事業運営を維持する。

